

森林・林業の情勢報告

森林・林業の再生に向けた取組

第98回国際協同組合デー記念フォーラム



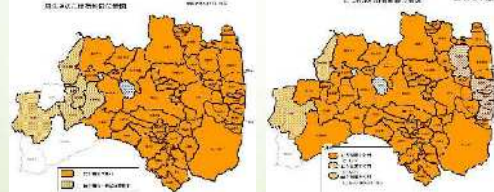
福島県森林組合連合会

1 東日本大震災と東京電力福島第一発電所事故の影響

(1) 野生きのこ・山菜の出荷制限

制限の種類	制限市町村数	制限の内容
野生きのこの出荷制限等	55市町村	【野生きのこの出荷制限】55市町村
山菜やたけのこで出荷制限	57市町村	主なもの 【たけのこ】27市町村 【こしあぶら】57市町村 【ふきのとう(野生のものに限る)】11市町村 【たらの芽(野生のものに限る)】32市町村

県内の多くの市町村において、野生きのこ、山菜の出荷制限が継続している。
出荷制限は、野生きのこは、基準値を超える全てに出荷制限がかかり、解除は、きのこの種類別に実施される。出荷制限の解除には、モニタリングの継続が必要。




出典：福島県HP

1 東日本大震災と東京電力福島第一発電所事故の影響


(1) 森林整備の停滞



森林整備が停滞すると、荒廃した森林が増え、これまで有してきた多面的機能が十分に発揮されず、水源かん養機能や土砂災害防止する機能が低下することにより土砂災害が発生しやすくなるなど、私たちの生活にさまざまな影響が及ぶことが心配される。



手入れが行き届かない森林



土砂災害が発生した森林

出典：福島県森林統計書
出典：福島県農林水産部パンフレット

1 東日本大震災と東京電力福島第一発電所事故の影響

(3) しいたけ原木生産の低迷

本県は、しいたけ原木生産の主産地として県内はもとより全国に向けてしいたけ原木の供給してきたが、現在、放射性物質の影響によりしいたけ原木の生産が困難であり、放射能の影響が比較的小さい地域においても、きのこ原木指標値を超える原木林が見受けられるなどきのこ原木の生産が停滞している状況にあります。

22年度実績
全国 7,603万本
福島県 682万本
県内消費 294万本
県外へ 388万本
(0.007m³/1本で計算)

しいたけ原木とは
 主にしいたけ栽培用の菌床を45cm、長さ80～110cmの丸太です。





しいたけの基準値
 放射性物質濃度(単位: Bq/kg) 1,300 (22年度)
 きのこ原木(新・未産)の指標値
 放射性物質濃度(単位: Bq/kg) 50 (22年度)
 放射性物質濃度(単位: Bq/kg) 200 (22年度)
 放射性物質濃度(単位: Bq/kg) 400 (22年度)
 放射性物質濃度(単位: Bq/kg) 2,000 (22年度)

2 森林・林業の再生に向けた取り組み

1) ふくしま森林再生事業

原発事故による放射性物質の影響により、森林整備や林業生産活動が停滞し、森林の有する水源かん養機能や山地災害防止の機能の低下が懸念されています。このため、間伐等の森林整備とその実施に必要な放射性物質対策を実施し、森林の有する多面的機能の維持増進に取り組んでいます。

●森林整備

森林整備の現状

水害復旧策、間伐作業、薪炭林整備、土壌改良等の実施状況。福島県では、福島県森林再生推進計画に基づき、森林整備の推進を図っています。また、放射性物質対策として、作業員の防護や作業場の除染を実施しています。

●放射性物質対策

放射性物質の対策

放射性物質の対策として、作業員の防護や作業場の除染を実施しています。また、放射性物質のモニタリングや測定を実施しています。

4

出典：福島県 ふくしま森林再生事業パンフレット

3 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の影響により、木材需要の先行き不透明感から製材工場の操業短縮や合板工場の原木丸太の受け入れ制限など、林業・木材産業を取り巻く環境は益々厳しさを増しており、原木の入荷量の減少や販売単価が下落しています。

2017年10月～2020年6月の木材価格動向

2017年10月～2020年6月の木材生産動向

森林組合連合会のき木材流通センター

原木市場 (入荷) / 製材工場等 (出荷)

仕宅メーカー・工務店等

木材製品

加工

6

出典：放射性物質の現状と森林・林業(林野庁)

2 森林・林業の再生に向けた取り組み

5 (2) ふくしま森林再生事業の実績

ふくしま森林再生事業実施市町村と開始時期

森林再生事業年度別実施と累計の推移

年度	年度実施 (ha)	累計 (ha)
2017	1,000	1,000
2018	1,100	2,100
2019	1,400	3,500
2020	1,700	5,200

福島県森林再生事業実施市町村